



浜家連 ニュース4月号

第236号

2020年4月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836
URL <http://hamakaren.jp/>

怖い、怖い

副理事長 大羽 更明

寄ると触ると新型コロナウイルスの話、近寄り触ったりすると染(うつ)ります。特に70歳以上の高齢者は死亡率が高いので注意が肝心だそうです。浜家連の会員の過半数の人は罹ったら死ぬかもしれません。

でも、日本での新型コロナ感染者数は3月17日時点で907人、インフルエンザに罹る人は毎年1,000万人ぐらいなので、感染力はそんなに強くないと言っても大きな間違いではないでしょう。世界中を巻き込んで一挙に広まり患者数20万人になったのでWHOがパンデミックと宣言したのも当たっているでしょうが、罹患者の8割が軽症だそうです。手洗いとうがいで防げるのだそうです。むしろ怖いのは、パンデミック(=世界的流行)というおどろおどろしい言葉に怯えたり、全国一斉の学校閉鎖のような過剰かなとも思える警戒心を持ったたり、マスコミやネットの報道に煽られてマスクやトレペを買い漁るような私たちの心性なのかもしれません。他人事ではありませんから予防は大事ですが、なんとか自分だけはこの群衆心理に惑わされないようにしたいものです。

3月16日に相模原のやまゆり園で起きた知的障害者殺傷事件の判決が出ました。被告に刑事的責任能力があると判定しての死刑です。けれど刑事的責任はともかく、犠牲になった方たちのことを思うと被告の行為は決して許せません。

それよりも大事なものは、命に軽重をつける被告の主張、信念がどのように形成されたのか、このようなことが二度と繰り返されないようにするにはどうしたらいいか、でしょう。日本障害者協会

の藤井克徳さんは、被告の心の奥底にあるものは誰にでもある「内なる差別」で、被告が生きてきた日本社会や家族との関係、勤務した施設など、取り巻く環境が深く影響していると述べています。犯行が他人事ではないことに気づき、障害者や高齢者、病気の人、女性など大きな困難を抱えている人を応援する気持ちが大切だと指摘しています。私たちも、精神疾患のことは特に気になるでしょうが、それに捉われず、この事件から得られる教訓をしっかりと考えてみたいものです。

さて、世間の目がやまゆり園事件の裁判や新型コロナウイルス感染の蔓延にばかり向いている中で、見逃せない事件の報道がありました。神戸市の精神科病院で看護師たちが患者を集団虐待したスマホの動画が偶然見つかって逮捕されたというのです。その中には男性患者同志のキス強要やトイレでの水かけ、



柵つきのベッドを逆さにした監禁など、戦慄する場面の動画もあったといえます。「反応が面白かったからやった」との供述もあるそうです。

話を聴いてくれる先生、やさしい看護師さん、相談にのってくれる病院ワーカーさんを信じたいという当事者や家族にとって、病院はとても大切なところ。入院中心から地域で生活しながら治療を受け、デイケアでのSSTや認知行動療法、試され始めたオープンダイアログなど薬だけではない医療への期待が高まる一方で、めんめんと続くこのような医療従事者による暴行、人権無視は恐ろしい限りです。3分診察、強制入院、隔離、身体拘束が日常化して、人間としての患者を尊重しないような病院は無くなってほしいです。

最近、「大阪精神医療人権センター」の話が浜家連にも伝わってきています。精神科病院に入院中の方の立場に立った権利擁護活動を実践している団体です。日本の精神医療の現状を、入院している方の権利が制限され、病院の密室性、医療関係者と患者との関係性に難があり、精神疾患や障害に対する差別・偏見が解消されていないことが問

題であると捉え、病院を訪問し、当事者と面会して病院の状況を社会に発信する活動をしているそうです。横浜でも横浜ピアスタッフ協会 YPS を中心に同じような活動をしようとする「横浜人権ネット」が立ち上がりました。家族としてなんらかの形で手を組み協力していけるといいと思います。

浜家連の動き

.....



非常事態の中、新年度を迎えた浜家連

事務局 中居 武司

3月18日（水）に予定していた第25回市民メンタルヘルズ講座（講座Ⅰ）「働きながら家族再生」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止の止む無きに至りました。同様に3月度理事会及び常任理事会も中止となりました。ご迷惑とご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。現在の状況からの苦渋の選択であり、ご理解下さい。

新型コロナウイルス問題はいつ落ち着くの・・・？

新年度を迎え、新体制の構築・2021年度予算に向けた要望書の作成・啓発事業の予定・・・等々、多くの課題を抱える時期ですが、理事の方々をはじめ皆様のご協力を得ながら、この難局を乗り越えたいと思いますので、よろしくお願いします。

何かありましたら、遠慮なく事務局までご連絡下さい。



厚生労働省のホームページから

イベントの開催に関する国民の皆様へのメッセージ 令和2年2月20日

新型コロナウイルスの感染の拡大を防ぐためには、今が重要な時期であり、国民や事業主の皆様方のご協力をお願いいたします。最新の感染の発生状況を踏まえると、例えば屋内などで、お互いの距離が十分にとれない状況で一定時間いることが、感染のリスクを高めるとされています。イベント等の主催者においては、感染拡大の防止という観点から、感染の広がり、会場の状況等を踏まえ、開催の必要性を改めて検討していただくようお願いいたします。なお、イベント等の開催については、現時点で政府として一律の自粛要請を行うものではありません。また、開催にあたっては、感染機会を減らすための工夫を講じていただきたい。例えば、参加者への手洗いの推奨やアルコール消毒薬の設置、風邪のような症状のある方には参加をしないよう依頼をすることなど、感染拡大の防止に向けた対策の準備をしていただきたい。

国民の皆様においては、風邪のような症状がある場合は、学校や仕事を休み、外出を控えるとともに、手洗いや咳エチケットの徹底など、感染拡大防止につながる行動にご協力をお願いします。特に高齢の方や基礎疾患をお持ちの方については、人込みの多いところはできれば避けていただくなど、感染予防に御注意いただくよう、お願いいたします。そのためには、学校や企業、社会全体における理解に加え、生徒や従業員の方々が休みやすい環境整備が大切であり、テレワークや時差通勤も有効な手段であります。関係の皆様のご協力をお願いいたします。なお、新型コロナウイルス感染症の今後の感染の広がりや重症度を見ながら適宜見直すこととしています。

Dブロック市民精神保健福祉フォーラムが開催されました



市民精神保健福祉フォーラム（浜家連Dブロック）開催報告 若杉会会長 西川 進 テーマ：「当事者・家族のまるごと支援」

2020年2月15日（土）横浜市金沢公会堂にて、市民精神保健福祉フォーラム（Dブロックフォーラム）を金沢区あおぞら会担当で、戸塚区、港南区、栄区の協力で開催しました。テーマは病気との上手な付き合い方を当事者と家族が共同で学び合い、語り合いながらリカバリーに繋げた「まるごと支援」の紹介です。

プログラムは2部構成で1部は「皆で歌いましょう」。2部は講演「当事者・家族のまるごと支援」です。1部「皆で歌いましょう」はソプラノ声楽家・光岡佐輝子さんによる「バラが咲いた」ほか5曲を会場の皆さんと手振りをしながら歌い、リラックスしました。その後シャンソン「バラ色の人生」などを独唱し、和んだ雰囲気になりました。

2部は講演とライブトークの構成です。ま

☆参加者の主な発言は次の通りです☆。

Aさん（家族）：当事者は監視されている妄想が強く、薬を拒否しているが、対応を工夫して不安にならない様な付き合い方ができてきた。生活は当事者ができることから始め、現在は一人暮らしで、ごみの分別ができる様になり、効果を感じている。

Bさん（家族）：他人から疑われていると感じる症状であったが、当事者の症状を否定しない様に付合ってから、当事者は孤独感が少なくなり安心できている様だ。ここまでに10年かかったが、もう少し早く知っていればと思っている。

Cさん（ピアさん）：幻聴や妄想が出始めて異常と感じたが、薬を飲むとなくなるので安心できた。生活支援センターに行って話を聞いて貰えて、人薬を得たと思っている。現在症状は安定していて、ピアスタッフとして役立っているの、これからも続けていきたい。

他の参加の皆さんの発言も同様に前向きな内容でした。その後の質疑では、この「まるごとの会」の今後の活動継続については、内山さんから「検討中」とのコメントがありました。・浜家連で実施の家族学習会との違いはとの質問に

ず、内山繁樹さん（関東学院大学看護学部）による講演「当事者・家族のまるごと支援」です。従来型の分離された支援では家族が直面する困難や負担には対処できず、病気を抱える当事者も不安から解放されません。それを改善する支援が「リカバリー志向の心理教育プログラム」の概念で、当事者・家族・専門家が協働で実施する「まるごと支援プログラム」です。

その後、栗城尚之さん（関東学院大学看護学部）司会による「まるごとの会」ライブトークです。ライブトークの参加者は家族4名、ピアさん1名と医療者（内山さん）1名の計6名です。テーマは①当事者の変化の気づき方②不調時のこと③薬の効用、人薬・時間薬について④「まるごと会」に参加してなどで、「パス」も含めたフリートーク形式です。

は、「家族+当事者との話し合い」という点との回答でした。・「自分の子供にもピアスタッフを進めてみたが無理と言われたが」という質問には、「当事者本人の意見を尊重すべき」とのコメントがありました。

来場者数は146名で、アンケートは71名（回収率48.6%）の回収となりました。講演への主なコメントでは、内容が「あるある」と共感する話や「なるほど」と勉強になる話など前向きなものが多く見られました。ただ、質疑時間が短すぎたとのこと指摘がありました。

「まるごとの会」の特徴は当事者と家族が共に学びながらお互いを理解し合うことでリカバリーに繋げる活動であると感じました。今後の活躍に期待したいと思います。最後に、開催を支援して下さった各区の福祉保健センター、生活支援センター、家族会、作業所の皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

家族学習会を実施しました

「家族による家族学習会」を終えて

若杉会では浜家連「第1回家族学習会」を実施して以来、実に10年ぶりに第2回目を1月13日から3月9日にかけて開催いたしました。

スタッフ6名の結束で昨秋から準備に入りました。(くしくも私一人だけは第1回目のスタッフ経験者ですが、「前はどうか？」と聞かれても漠然としか覚えておらず、ただ、とても役立ったこと、楽しかった心象しかありませんでした。)

事前に浜家連からアドバイザーがご指導くださり、他に自主的にテキストの読み合わせを2回行いました。

学習会のチラシも、病院、クリニック、福祉施設関係へ手分けして配布いたしました。

・終了後の感想は、

【参加者の感想】

1. テキストが分かりやすくて勉強になった。
2. 症状の説明に納得できた。何十年もこの通りであり、理解できた。
3. 症状がオーソライズされて勉強になった。
4. 分かりやすいテキストが大変参考になりました。今後折りにつけて読み返し理解を深めたいと思います。
5. このような勉強会を時折開催して下さるととても参考になると思います。
6. 体調を整え全回出席できて満足です。準備などに尽力くださりありがとうございます。

【スタッフの感想】

1. 高齢の方でも熱心に勉強している姿に感動した。
2. 家族同士が共感し合い、正しい知識や対応の仕方の勉強ができ、とても良いテキストに出会えた。
3. 参加者の話は頷くことばかり。
4. 優しい感情と素晴らしい行動力がありながら障害と折り合いをつけることができず、苦しむ当事者、支えるお母さん、きっと立ち直りますよ。

【編集後記】電車や街中ではマスクを付けている人がほとんど、付けていない人がチラホラと。これが数ヶ月前だったら、異様な光景に映ったかも知れません。「これでもか、これでもか」とコロナ感染の報道が連日流れています。これらを見聞きしている当事者の方々が不安にならないか心配になってしまいます。



(事務局 中居)